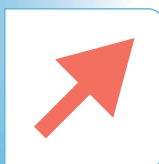


Financial Report 業績のご報告

連結

売上高

1兆346 億円
(前年同期比 +15.1%)



営業利益

957 億円
(前年同期比 -3.2%)



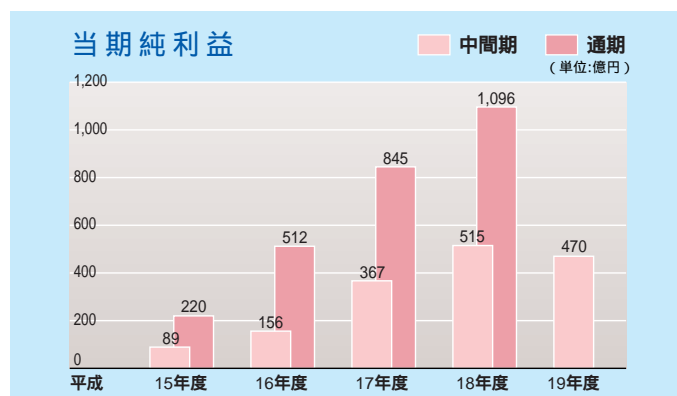
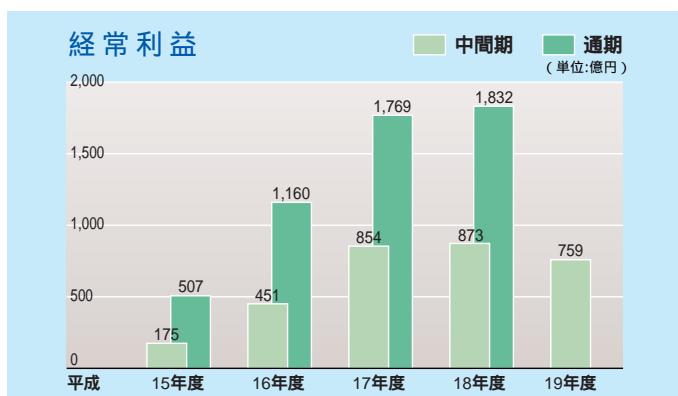
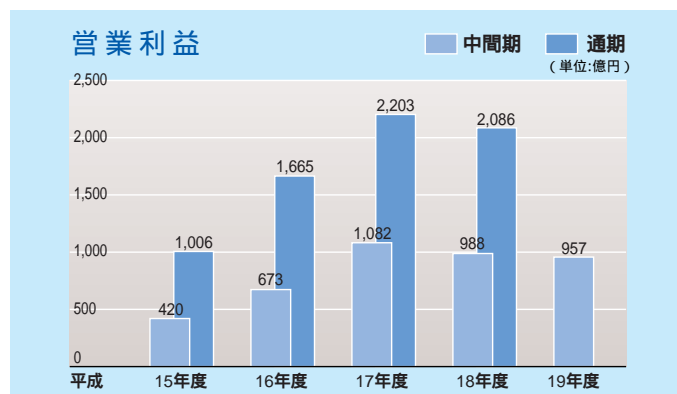
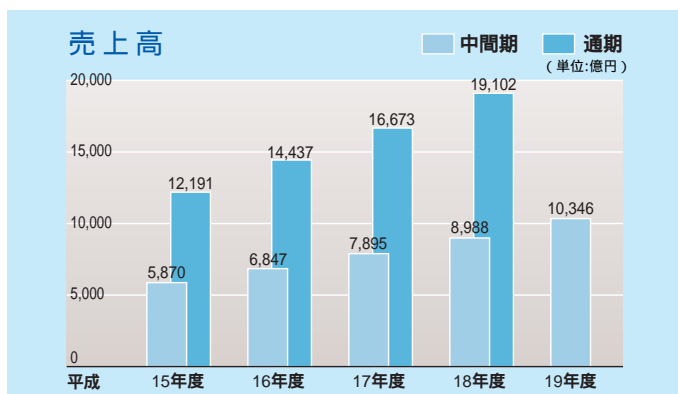
経常利益

759 億円
(前年同期比 -13.1%)



当期純利益

470 億円
(前年同期比 -8.8%)

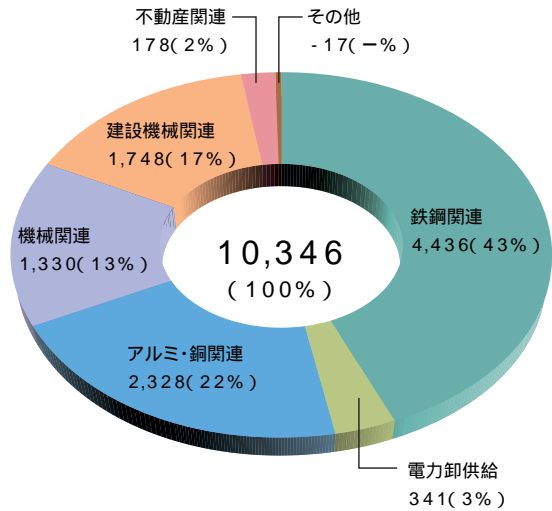


当上半期の概況

当上半期のわが国経済は、高水準の企業収益や総じて良好な業況感が維持される中、民間設備投資が引き続き増加した他、緩やかに増加を続ける雇用者所得を背景に、個人消費も底堅く推移するなど、景気は緩やかに拡大しました。海外においても、中国を始めとするアジアを中心として、世界的に経済は拡大しました。

当上半期の連結業績は、売上高は、需要が好調な鉄鋼、建設機械などを中心に増加し、前年同期に比べ1,357億円増収の1兆346億円となりましたが、営業利益は、海上運賃や一部金属価格の高騰に加え、税制改正を受け減価償却方法を変更したことに伴う償却費の増加などにより、31億円減益の957億円となりました。また、経常利益は114億円減益の759億円、税引き後の中間純利益は45億円減益の470億円となりました。

セグメント別売上高(平成19年度上半期) (単位:億円)



(注)「その他」には「電子材料・その他の事業」の売上高277億円とセグメント間の内部売上高等の消去額-295億円が含まれておりますので、上記グラフ「その他」の金額は-17億円となっております。

セグメント別の概況 (枠内の数字は売上高を記載しています)

鉄鋼関連事業

4,436 億円

(前年同期比 +11.7%)



国内の鋼材需要は、自動車・造船などの製造業向けを中心に、好調に推移しました。また、輸出についても、世界的な需要拡大を背景に堅調に推移しました。

このような状況のもと、当社は、製造業向けの高級鋼を中心に、旺盛な需要の確実な取り込みに努めたことにより、鋼材出荷数量は前年同期

を上回りました。また、販売価格についても、特殊鋼などで値上げを実施したことから、前年同期に比べ上昇しました。鑄鍛鋼品については造船分野向け、チタン製品については航空機分野向けなどを中心とした旺盛な需要を背景に、売上高は前年同期を上回りました。

溶接材料については、国内は造船・自動車・建築向けを中心に、海外についても造船・エネルギー関連プロジェクト向けなどを中心に、引き続き堅調な需要に支えられ、売上高は前年同期を上回りました。

この結果、当事業の売上高は前年同期比12%増の4,436億円となりました。一方、営業利益は、鉄鋼原料にかかわる海上運賃や一部金属価格の

高騰に加え、減価償却方法を変更した影響などにより、前年同期に比べ53億円減益の401億円となりました。



薄板コイル

電力卸供給事業

341 億円

(前年同期比 - 0.7%)



現在、神鋼神戸発電所では、最大出力140万キロワットの電力を供給しております。当事業の売上高は、前年同期並みの341億円となり、営業利益は、保全工事が集中したことなどにより前年同期に比べ11億円減益の81億円となりました。



神鋼神戸発電所(中央操作室)

アルミ・銅関連事業

2,328 億円

(前年同期比 + 21.0%)



アルミ圧延品の販売量については、液晶製造装置向け板材が調整局面の継続による影響から減少したものの、飲料用缶材は猛暑や清涼飲料の新製品投入などの影響により好調であったことや、自動車向けパネル材やバンパー材、エアコン

用フィン材が堅調に推移したことから、前年同期を上回りました。

銅圧延品の販売量は、電子材料向け板条は堅調に推移したものの、空調用銅管は国内を中心に減少したことにより、前年同期を下回りました。

アルミ鋳鍛造品については、液晶製造装置向けの調整局面が継続したことから、売上高は前年同期を下回りました。

以上のような状況のもと、全体の販売量が前年同期を上回ったことに加え、地金価格の高騰により販売価格が押し上げられたことから、当事業の売上高は前年同期比21%増の2,328億円と

なりました。一方、営業利益は、前年度の収益を大きく押し上げた地金価格の高騰に伴う在庫評価影響が減少したことなどにより、前年同期に比べ40億円減益の140億円となりました。



磁気ディスク用アルミ基板

機械関連事業

1,330 億円

(前年同期比 + 11.4%)



国内向け受注高は、好調な民間設備投資を背景に、圧縮機、圧延機械などが引き続き堅調に推移しましたが、環境分野において廃棄物処理の大型案件を受注した前年同期との比較では、15%減の746億円となりました。また、海外向け受注高は、中東やアジア、北米での石油精製、石油化学、

エネルギー業界における活発な設備投資を背景に、圧縮機や樹脂機械、リアクターなどの受注が引き続き高水準で推移したことに加え、大型のペレットプラントを受注したことなどから、前年同期比44%増の1,277億円となりました。

この結果、当事業全体での受注高は、前年同期に比べ15%増の2,023億円となり、当上半期末の受注残高は3,919億円となりました。

また、当事業の売上高は、引き続き高水準の受注を背景に、前年同期に比べ11%増の1,330億円となり、営業利益は前年同期に比べ70億円増益の125億円となりました。



バッチ混練機「BBミキサー」

建設機械関連事業

1,748 億円

(前年同期比 +31.3%)



油圧ショベルの国内市場は、公共工事が引き続き減少傾向にあるものの、堅調な民間投資や中国など海外市場への中古車輸出による国内

ストック台数の減少などを背景とした更新需要に支えられて、好調に推移しました。海外についても、住宅着工件数の低迷を受け需要が減退している米国市場を除き、中国市場を中心に総じて好調に推移しました。また、クレーン事業についても中東や東南アジアを中心に旺盛な需要が継続したことから、当事業全体の売上高は前年同期比31%増の1,748億円となり、営業利益は前年同期に比べ61億円増益の130億円となりました。



後方超小旋回油圧ショベル
(アセラ・ジオベック)SK225SR

不動産関連事業

178 億円

(前年同期比 -5.5%)



不動産販売事業において、分譲マンションの引渡し戸数が減少したことなどから、当事業の売上高は前年同期比6%減の178億円となり、営業利益は、前年同期に比べ8億円減益の19億円となりました。



尼崎オフィスビル計画

電子材料・ その他の事業

277 億円

(前年同期比 -9.1%)



液晶ディスプレイの在庫調整の影響並びに代替素材との競合によって、配線膜用ターゲット材の販売量が減退したことなどから、売上高は前年同期比9%減の277億円となり、営業利益は、前年同期に比べ46億円減益の36億円となりました。



ターゲット材